

## 「卓越研究員制度」に関するアンケート ご協力をお願い

### 【キャリアパス委員会主催ランチョンセミナー2016 事前アンケート】

今年度から鳴り物入りで始まった「卓越研究員」制度。「安定性のあるポストに就きながら、産学官の機関や分野の枠を越えて、独創的な研究に専念できる環境を用意する」というのは夢のような制度のように思われる一方、様々な問題点も指摘されています。先日、東京大学にて日本学術会議主催の学術フォーラム「若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える～卓越研究員制度の現状と未来、そしてさらなる可能性～」が開催されました。しかしながら、演者のほとんどは卓越研究員を「選ぶ側」の世代や立場にある人々。応募する側の生の声はなかなか聞こえてきません。そもそも、選ばれる側と選ぶ側は、お互いの事情と思惑をどれだけ理解し合っているのでしょうか。

そこで、分子生物学会キャリアパス委員会では、第39回年会においてランチョンセミナー2016『卓越研究員制度の活かし方―選ぶ側の論理と選ばれる側の論理』を開催し、現場の研究者と施策を作る側の官僚の方がお互いの意見を聞きながらこの制度をどのように活かしていけば良いのか共に考える舞台を作りたいと思います。

とはいえ、当日の時間は限られています。そこで、まずはアンケートを実施して現場の声を集約し、それを文部科学省の担当者の方に伝え、さらにそれに対するコメントを持ち帰って事前に共有することで、議論を深めて行きたいと考えています。なるべく広い立場の方の意見を集約したいと考えておりますので、若手研究者だけでなく、中堅やシニアの方も、是非以下のアンケートにご協力ください。

調査結果は文部科学省を含む行政等への提供資料に使わせていただきます。

### 【アンケート実施期間 2016年9月26日（月）～10月11日（火）】

日本分子生物学会キャリアパス委員会

#### 1.性別 \*必須

☐男性 ☐女性 ☐回答しない

#### 2.職階 \*必須

☐学部学生 ☐大学院生（修士）☐大学院生（博士）☐ポスドク ☐大学教員（助教・講師・准教授）  
☐大学教員（教授） ☐研究員 ☐主任研究員・チームリーダー・室長以上 ☐企業  
☐その他（自由記述）

#### 3.年齢 \*必須

☐24歳以下 ☐25～29歳 ☐30～34歳 ☐35～39歳 ☐40～49歳 ☐50～59歳 ☐60歳以上

#### 4.卓越研究員制度についてどれくらいご存知ですか？

☐よく知っている ☐なんとなく知っている ☐ほとんど知らない

#### 5.卓越研究員として働く場合、アカデミアと企業のどちらが魅力的ですか？

☐どちらも魅力的である ☐アカデミアの方が魅力的である ☐企業の方が魅力的である  
☐どちらも魅力的ではない ☐わからない

#### 6.今回の募集で自分の専門分野に合致した公募がありましたか？

☐あった ☐なかった ☐応募していないのでわからない

#### 7.任期の有無と研究テーマの選択についてあなたの意見に近いものはどれですか？

☐任期制であっても結果が予測できない挑戦的なテーマを選ぶ  
☐任期制の場合は結果が予測できる確実な研究テーマを選ぶ ☐わからない

#### 8.従来のデニュアトラック制度と卓越研究員制度のどちらに魅力を感じますか？

☐どちらにも魅力を感じる ☐従来のデニュアトラック制度に魅力を感じる  
☐卓越研究員制度の方に魅力を感じる ☐どちらにも魅力を感じない ☐わからない

#### 9.今回の募集では40歳（臨床研修を課された医学系分野は+3）未満という年齢制限がありました。卓越研究員制度の趣旨から考えて適切な年齢制限は何歳だと思いますか？

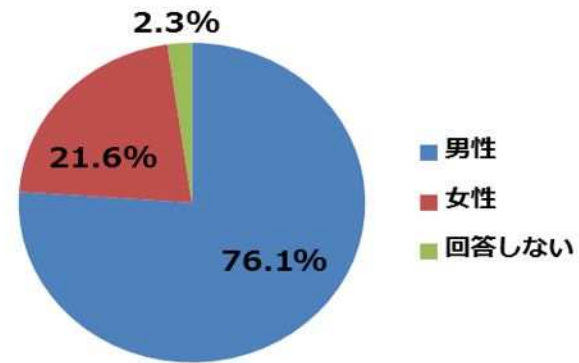
☐35（+3）歳未満 ☐40（+3）歳未満（現状が適切） ☐45（+3）歳未満  
☐50（+3）歳未満 ☐年齢制限は撤廃すべき

- 10.今回の募集では出産、子育てといったライフイベントを考慮した年齢制限の緩和がありませんでした。これについてどう思いますか？  
☐年齢制限の緩和をした方が良い ☐年齢制限の緩和は必要ない ☐わからない
- 11.今回の募集では生物学分野の倍率は 25 倍となり、他分野の平均値と比べて 4 倍にものぼりました。この件についてあなたの意見に近いものはどれですか？  
☐倍率格差は是正すべきである ☐無理に是正するべきではない ☐わからない
- 12.卓越研究員に採用されても受け入れ側とのマッチングが不調に終わった場合、マッチングのための猶予期間が 1 年だけ設けられています。猶予期間はどれくらいが望ましいですか？  
☐多くの人に機会を与えるため毎年新たに卓越研究員の審査をするべきである  
☐1 年（現状が適切） ☐2 年 ☐3 年以上
- 13.メンター制度についてお聞きます。この制度についてどう思いますか？  
☐完全な独立運営は負担が大きいので必要である  
☐独立した研究の支障になるのでなくすべきである ☐わからない ☐その他（自由記述）
- 14.各研究機関が卓越研究員を推薦できる仕組みがありました（生物学では 15 件中 0 件、医歯薬学では 37 件中 16 件）。この仕組みについての意見をお聞かせください。  
☐推薦枠は趣旨に合わないので撤廃すべきである  
☐推薦枠は採用機関の裁量を反映させるために必要である ☐わからない ☐その他（自由記述）
- 15.採択後 2 年目まで卓越研究員に支給される上限 600 万円の研究費についてあなたの意見に近いものはどれですか？  
☐国家予算状況を考えれば適切な額である ☐全くもって不十分である ☐わからない
- 16.採択後 2 年目まで採用機関に支給される上限 300 万円、その後 5 年目まで 200 万円の環境整備費についてあなたの意見に近いものはどれですか？  
☐国家予算状況を考えれば適切な額である ☐全くもって不十分である ☐わからない
- 17.若手のポジションとして最も充実させるべきものはどれだと思いますか？  
☐特別研究員 PD ☐海外特別研究員 PD ☐プロジェクト雇用ポスドク ☐任期制助教  
☐テニユアトラック助教 ☐卓越研究員 ☐従来の定年制助教
- 18.卓越研究員制度に何を期待していますか。一番近いものを選んでください。  
☐若手向きのポスト不足解消 ☐民間転出へのきっかけ作り ☐硬直した人事制度の打開  
☐わからない ☐その他（自由記述）
- 19.ポストを提示した「選ぶ側」の関係者の方にお聞きます。今回卓越研究員を採用することになりましたか？  
☐採用できた ☐採用できなかった ☐選考中
- 20.19.で「採用できなかった」と答えた方にお聞きます。その理由と今後改善が必要な点についてのお考えをお教えてください。
- 21.今回、卓越研究員に採用されてもマッチングが不調に終わった（募集機関のニーズに合わないということで不採用になった）人が特に生物系ではかなりの数に上っています。このような事態を開解するためのアイデアがあればお願いします。
- 22.研究環境を取り巻く様々な問題はアカデミアだけで解決できるものではなく、行政への働きかけが必要であるという意見もあります。このような活動についてどう思いますか？  
☐積極的に行うべき ☐慎重に検討したうえで行うべき  
☐そういった活動は行うべきではない ☐わからない
- 23.その他、卓越研究員制度を改善するためのアイデアがあれば是非お聞かせください。

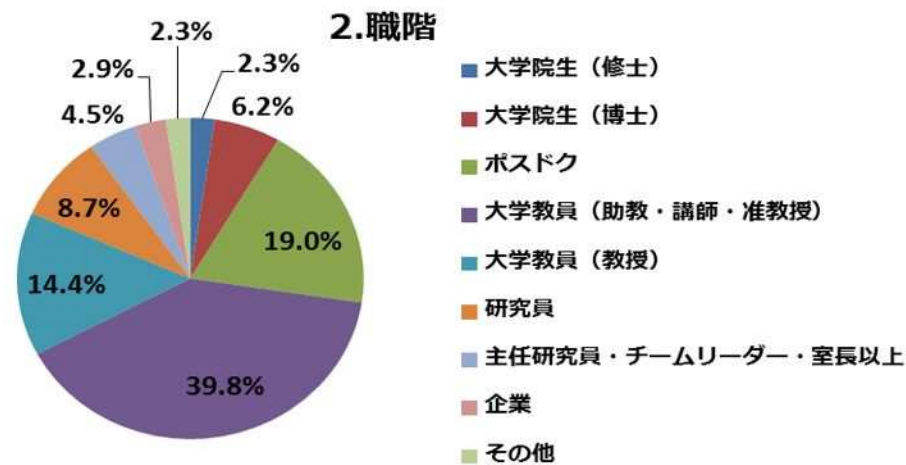
日本分子生物学会 「卓越研究員制度」に関するアンケート

【実施期間】 2016年9月26日（月）～10月11日（火）【回答者数】485名（設問19はポストを提示した「選ぶ側」の関係者のみ：77名）

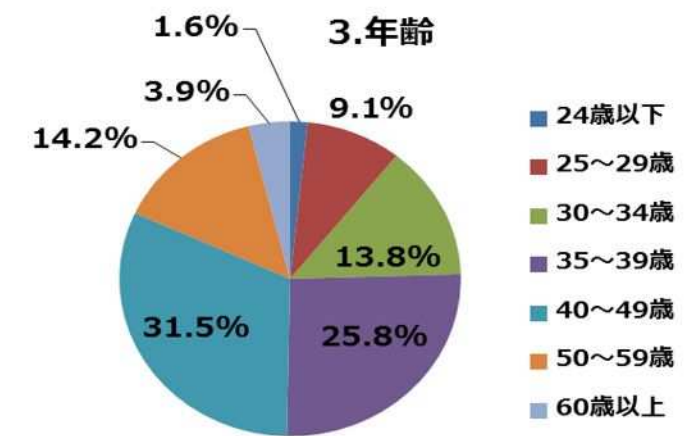
1.性別



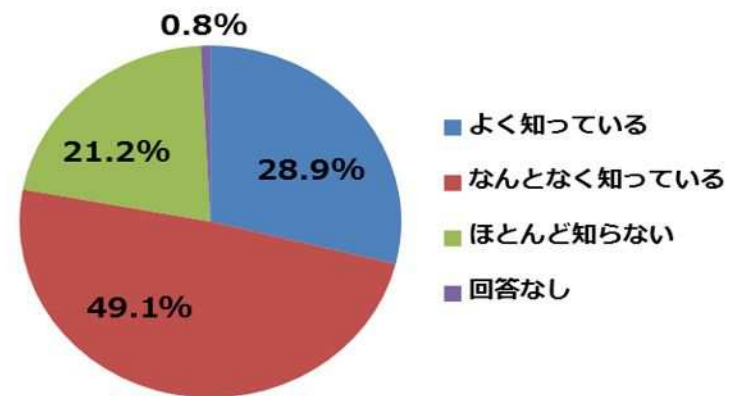
2.職階



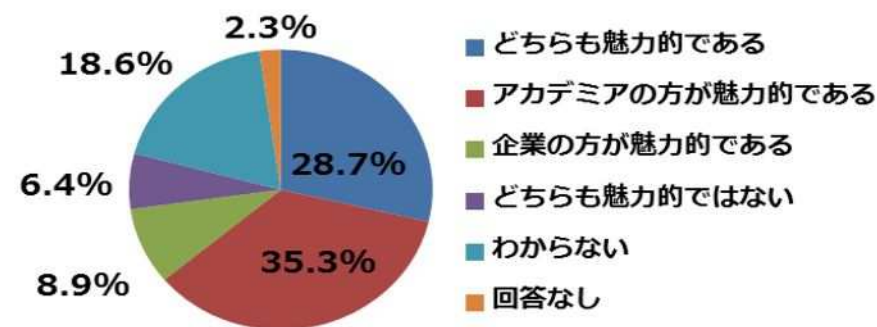
3.年齢



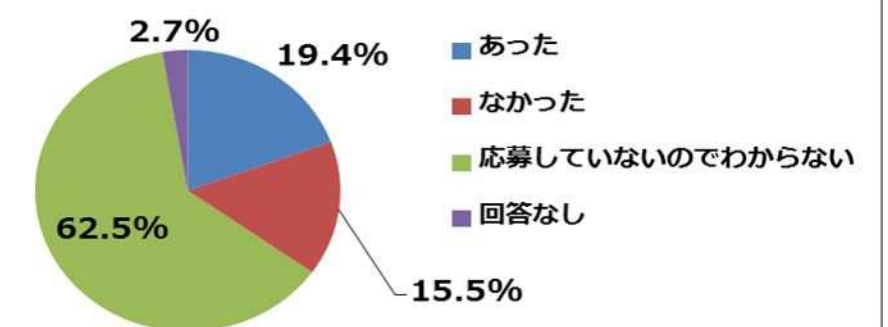
4.卓越研究員制度について



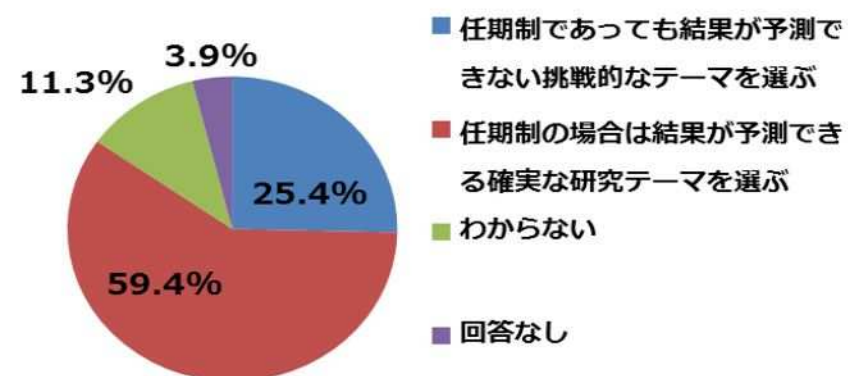
5.卓越研究員として働く場合アカデミアと企業のどちらが魅力的か



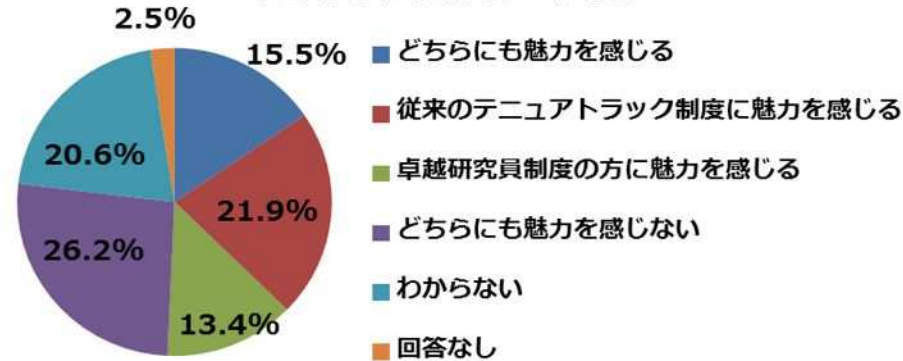
6.今回の募集で自分の専門分野に合致した公募はあったか



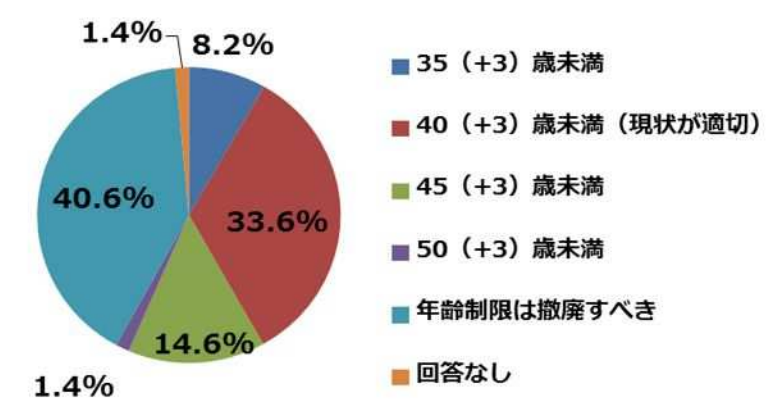
7.任期の有無と研究テーマの選択について



8.従来のテニュアトラック制度と卓越研究員制度のどちらに魅力を感じるか



9.卓越研究員制度の適切な年齢制限は何歳か

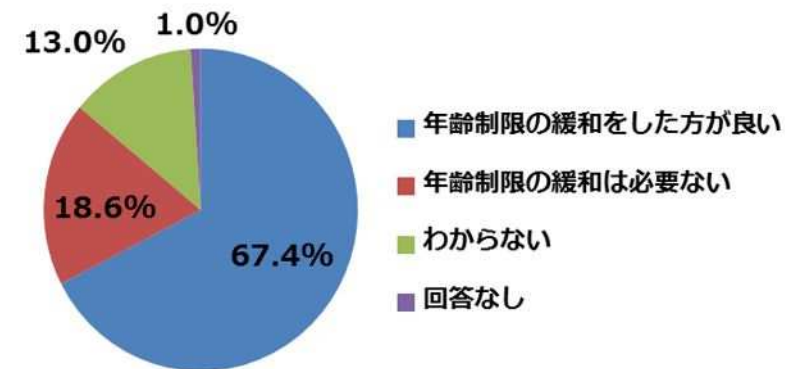




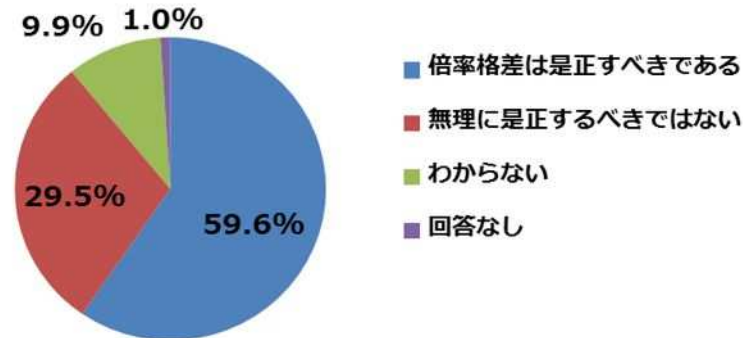
日本分子生物学会 「卓越研究員制度」に関するアンケート

【実施期間】 2016年9月26日（月）～10月11日（火）【回答者数】485名（設問19はポストを提示した「選ぶ側」の関係者のみ：77名）

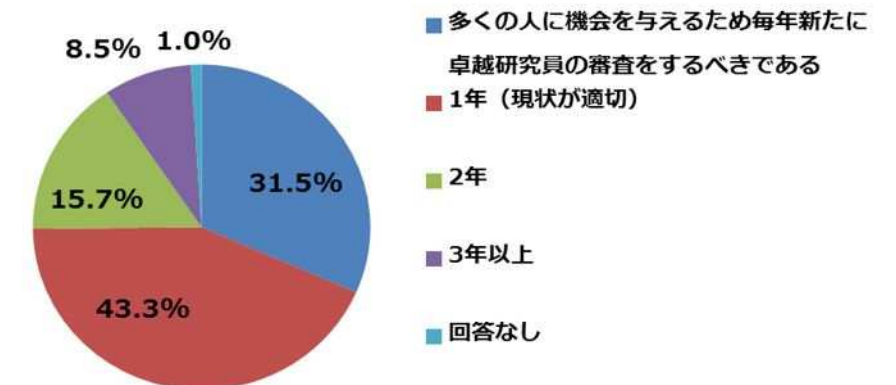
10. 今回の募集でライフイベントを考慮した年齢制限の緩和がなかったことについて



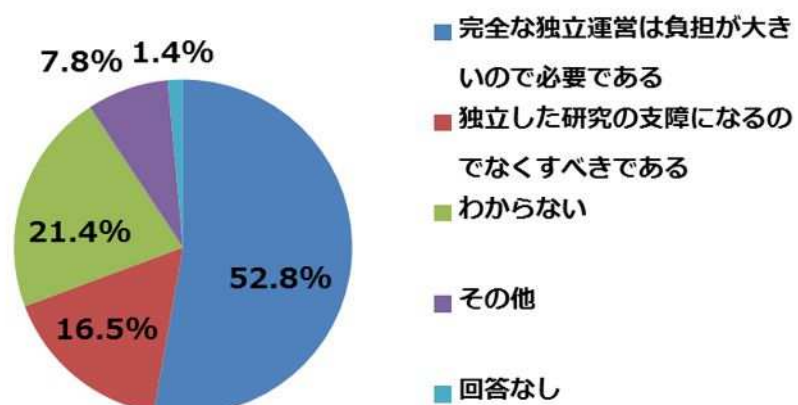
11. 今回の募集で生物学分野の倍率が25倍、他分野の平均値と比べ4倍となったことについて



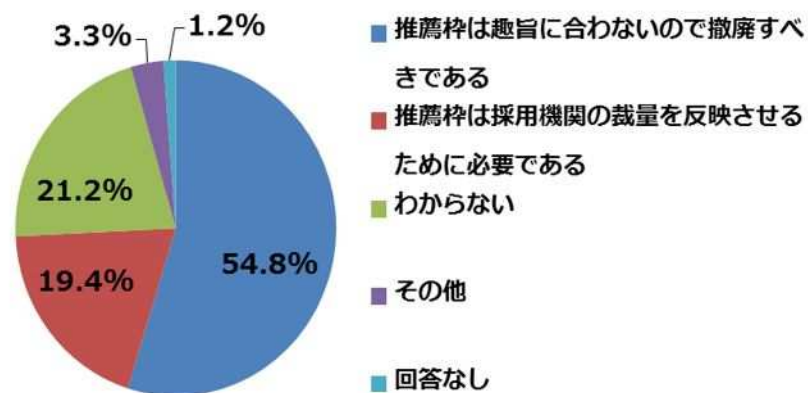
12. 卓越研究員採用者の適切なマッチング猶予期間



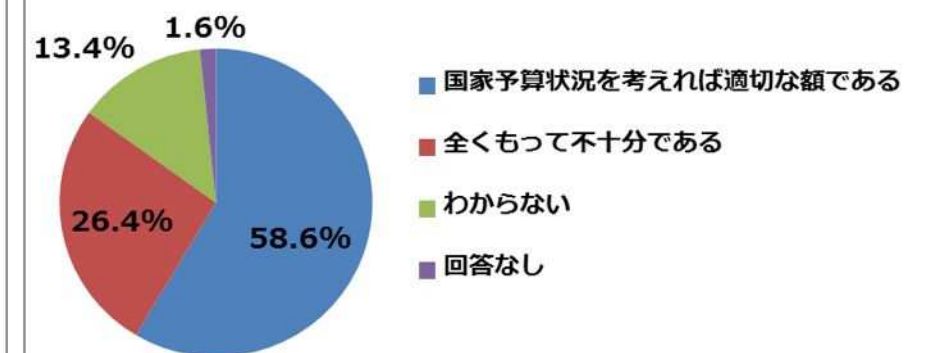
13. メンター制度について



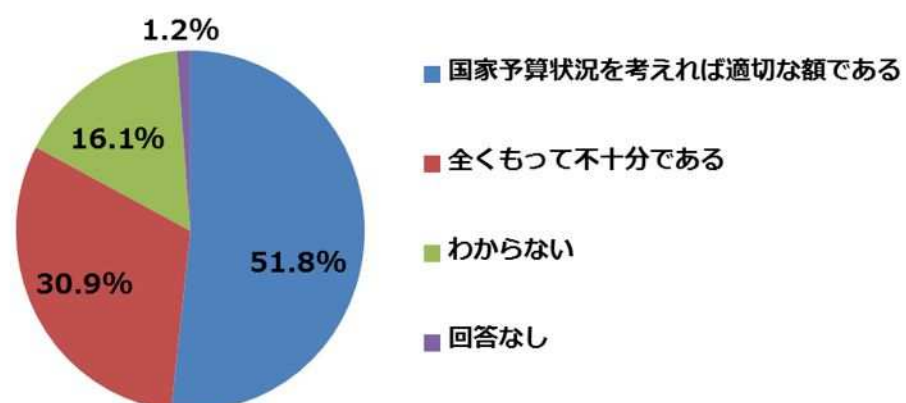
14. 各研究機関が卓越研究員を推薦できる仕組みについて



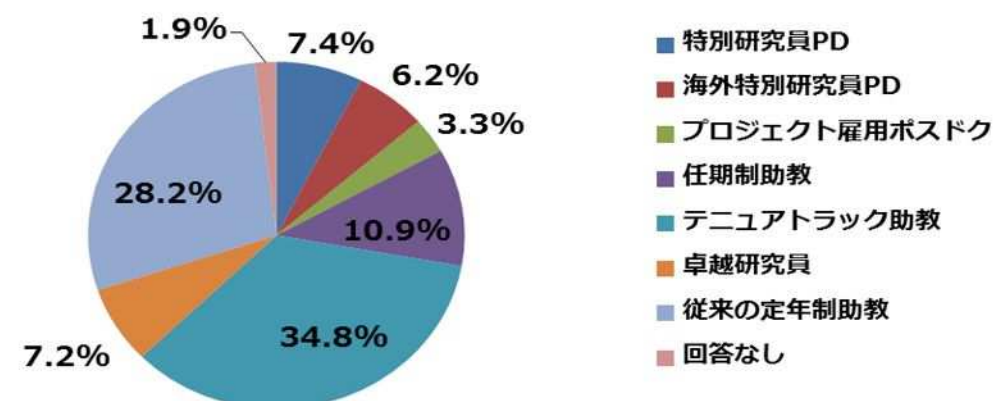
15. 採択後2年目まで卓越研究員に支給される上限600万円の研究費について



16. 採択後2年目まで採用機関に支給される上限300万円、その後5年目まで200万円の環境整備費について



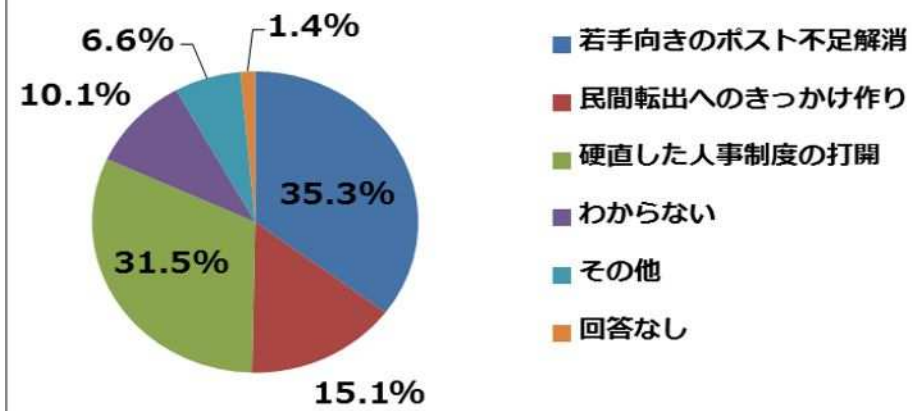
17. 若手のポジションとして最も充実させるべきもの



日本分子生物学会 「卓越研究員制度」に関するアンケート

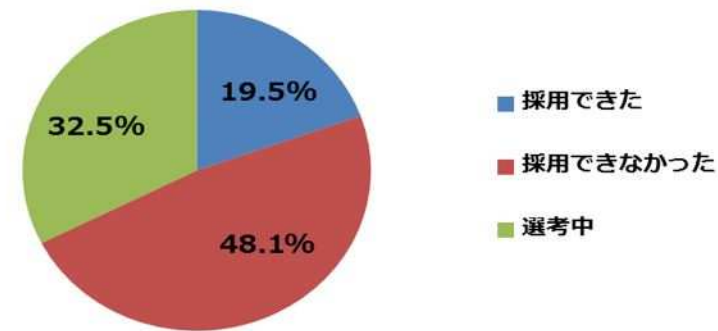
【実施期間】 2016年9月26日（月）～10月11日（火）【回答者数】485名（設問19はポストを提示した「選ぶ側」の関係者のみ：77名）

18.卓越研究員制度に期待するもの



19.今回卓越研究員を採用することになったか  
（ポストを提示した「選ぶ側」の関係者対象）

※回答者77名における各回答の割合



22.研究環境を取り巻く様々な問題に関する  
行政への働きかけについて

